情報処理 II 第 4 回

ネットワーク (4) WWW

桂田 祐史 (かつらだ まさし)

2003 年 5 月 8 日

1 連絡事項

- 先週の授業 (インターネット講習会) を受講した人は、情報科学センターのアカウントで、アクセス・レベル 2 の資格を得られているはずです (例えば、学外の WWW ページが読めるなど、「アプリケーション・ゲートウェイ」経由でインターネット上のホストへのアクセスが可能になります)。確認は次のページで出来ます。

  http://www.meiji.ac.jp/mind/tool/internet-license/

- まだインターネット講習会を受講していない人は、この講義が終了するまでに受講してください。

  「MIND 講習会」http://www.meiji.ac.jp/mind/seminar/ 参照

2 WWW

数年前までは、この授業で初めて WWW を使うという人もかなりいたのですが、今ではそういう人は珍しくなってしまいました。隔世の感があります。また、この情報処理 II 以前にインターネット講習会を受講している人も多くなりました。今回 WWW の説明をするわけですが、思い切って「ソフトの使い方」についての説明は省略することにしました。自分で調べるなり、友人に尋ねるなりして下さい。参考までに昨年の解説資料をあげておきます。

http://www.math.meiji.ac.jp/~mk/syori2-2002/jouhousyori2-2002-04/

2.1 要点

- 個人的には WWW にまつわる二つの奇跡があると感じている。
  1. WWW は案外単純な仕掛けがこれだけうまく動いて有用であるという事実
  2. google に代表されるロボット系検索エンジンの成功

- 思い切って単純化すると、WWW 技術そのものは次の 3 つのものからなる (それぞれが何をするためのものか位は理解しよう)。

  1. DNS (domain name system)
     付録 B に簡単な説明がある。
  2. URL (uniform resource locator)
  3. HTML (hyper text markup language)

- WWW サーバーがやっていることは案外単純である。単に指定された (自分が持っている) データを送るだけと言える。

直接 WWW サーバーと話してみよう

UNIX 環境から telnet コマンドで WWW サーバー (例えば数学科の www.math.meiji.ac.jp) の 80 番ポートにアクセスしてみよう)。

```
isc-xas06% telnet www.math.meiji.ac.jp 80
Trying 133.26.140.28...
Connected to mathweb.mind.meiji.ac.jp.
Escape character is '^]'.
GET /index.html           ← これが唯一の指示
<HTML>
<HEAD>
  <META NAME="GENERATOR" CONTENT="Adobe PageMill 3.0J">
  <META HTTP-EQUIV="Content-Type" CONTENT="text/html;CHARSET=x-sjis">
  <TITLE>Department of Mathematics, Meiji University </TITLE>
</HEAD>
<BODY BACKGROUND="bg0.gif" TEXT="#660066">
... (省略) ...
</table>
</body>
</html>
isc-xas06%
```

つまり単に GET ファイルのパス名 として指定されたファイル (上の例では index.html) を送ってくるだけである。ブラウザーは送られたデータ (上の例では HTML 形式) を適切に解釈して必要な処理をすることになる。

2.2 WWW とは

WWW (World Wide Web, 短く Web (ウェッブ) と読まれることも多い) は、スイスの **CERN** (ヨーロッパ素粒子物理学研究所[1]) で Tim Berners-Lee 氏が論文閲覧システムとして開発したもの (1990) が原点となっている情報発信 (情報検索、情報提供) システムであり、以下の特徴を持つ。

[1]昨年 (2002)、ノーベル物理学賞を受賞した小柴昌俊氏なども活躍した素粒子物理研究のメッカ。

(1) インターネット上のリソース[2]を「リンク[3]」したハイパーテキスト[4]を記述できる **HTML** (hyper text markup language[5]) を扱う。

(2) リソースの場所を示すために **URL** (後述) を用いる。

(3) 主たる通信プロトコルとして **HTTP** (hyper text transfer protocol) を用いる (このプロトコル[6]自体は大変単純である)。

(4) リソースとしてはテキストだけでなく画像、映像、音声などのいわゆるマルチメディア・データが扱える。

URL とは

URL は "Uniform Resource Locator" の略。直訳すると「統一的なリソース指示法」。インターネット上の各種リソースの「場所」を統一的な仕方で指定するフォーマット、あるいはそのフォーマットによる実際の「場所の指定」のこと。

`http://www.meiji.ac.jp/index.html`	明治大学のホームページ
`http://www.sony.co.jp/index.html`	ソニーのホームページ
`http://www.nasa.gov/index.html`	NASA のホームページ
`http://www.asahi.com/index.html`	朝日新聞のホームページ
`http://home.netscape.com/`	Netscape Comm. のホームページ
`ftp://ftp.iij.ad.jp/`	有名なプロバイダー IIJ の ftp サーバー
`gopher://gopher.ncc.go.jp/`	国立がんセンターの gopher サーバー　　ついになくなった！
`file:/home/mk/internet.tex`	ローカル・ホストの "`/home/mk/internet.tex`" というパス名のファイル

などの例からも大体の「形式」は分かるが、一般には

スキーム名:　ホスト名. ドメイン名 [:ポート]　/パス名 [?検索条件]

という形式になっている[7]。スキームは、データの転送の仕方を表す ("`http`" はハイパーテキスト転送プロトコル、"`ftp://`" はいわゆる ftp (ファイル転送プロトコル)、"`file`" はローカルなファイルへのアクセス)。コンピューター (ホスト) を指定するには、ドメイン・ネーム・システム (DNS, 付録で解説) が用いられる。パス名はそのコンピューターの中で、ファイルの場所を示す「名前」のことである (この言葉そのものは UNIX に由来している)。

---

[2]コンピューターの世界では、「利用できるもの」を何でもリソース (resource, 資源) と呼ぶ。

[3]WWW のページ (ハイパーテキスト) の中で、別のインターネット・リソースを後述の URL で指定しておいて、マウスの操作一発でそのリソースを参照することを可能にした仕掛けのこと。ハイパーリンクとも言う。

[4]ハイパーテキストという語そのものは、それ以前から使われていて、(1) 様々なデータを「参照」によって結びつけた、(2) (文字情報だけではない) マルチメディア情報を取り込んだ、という二つの条件を満たした、従来からのテキストを越えた新しいテキスト、と言った意味で使われていることが多い (hyper = ~ を越えた、非常な)。Macintosh の HyperCard, TRON のダイナミック・ドキュメント、TEX の HyperTEX 拡張など。

[5]HTML の例が見たければ、IE, Netscape などのブラウザーの「表示」メニューから「(ページの) ソース」を選択すれば良い。

[6]通信の世界では、通信のための取り決め、と言った意味。http = Hyper Text Transfer Protocol, ftp = File Transfer Protocol, etc.

[7][　] は省略可能であることを表す。

(最近は URL を拡張した **URI** ("Uniform Resource Identifiers") という言葉が使われることも多くなった。現在では、URL は、URI のうち、主たるアクセス手段を識別の手法とするものを指す非公式な概念である、と説明するものだそうである (`http://www.kanzaki.com/docs/html/htminfo-uri.html` を見よ)。

2.3 WWW ブラウザー

WWW ページを読む (ブラウズ) するためのソフトウェアを **WWW** ブラウザーと呼ぶ。

http (WWW) 以外の ftp, WAIS, Gopher, E-mail, Network News など、様々な機能を備えた統合的なソフトウェアになっているものが多い。

大抵は GUI (graphical user interface) を持ち、マウスの操作で色々なことが出来るが、CUI のテキスト・ブラウザーもある (文字情報が主たる内容のページが案外多いので、かなり実用的である。特に広告がゴタゴタしているページではむしろ快適とも言える...)。

WorldWideWeb	世界最初の WWW ブラウザー。ティム・バーナーズリー氏が作成。「ティム・バー
Mosaic	NCSA 開発 (1993) の最初の定番 WWW ブラウザー。 (Netscape, IE の間接・直接の基礎となった。)
Netscape	Netscape Communications Corp. 製の、ある時期の定番ブラウザー。 様々な OS に移植されている。
Internet Explorer	Microsoft 製。現在シェア一番。
Lynx	テキスト型ブラウザー。
w3m	日本製テキスト型ブラウザー。
Mozilla	Netscape から派生したオープン・ソースのブラウザー。
Opera	最近シェアを伸しつつある。

情報処理教室のパソコンでは

情報処理教室の Windows 環境には Internet Explorer, Netscape がインストールされている (いずれもスタートメニューから起動可能)。

情報処理教室のパソコンはインターネットに直接接続はされていない。インターネット講習会を受講した人に限り「**MIND** アクセスレベル **2**」の利用が可能で、アプリケーション・ゲートウェイ経由でインターネット上の WWW ページにアクセス出来るようになっている。

事前に [スタート] メニューの [レベル **2** 利用資格認証] を選択・実行し、ユーザー名、パスワードを入力する必要がある。

操作法は... もう説明無いと思われるので省略。

2.4 WWW ページのアクセスの仕方

見たいページの URL を指定してやればよい。そのための方法としては、以下の三つの手段がある。

1. URL を直接入力する。
2. 既に表示してあるページの中のリンクをたどる。

3. ブックマーク (お気に入り) から選択する。

2.5 検索エンジン

無数にある WWW ページの中から、自分が必要とする or 興味を持っている情報を探すにはどうしたら良いか？友人から面白いページの URL を教わるというのももちろん結構だが、実はそのものずばりホームページ検索用のホームページがある。そこで働いている検索用プログラムを検索エンジンと呼ぶ。

検索エンジンは、元々は

1. 人間が人力で収集・整理したもの (ディレクトリ系)
   例えば Yahoo (ヤフー) (http://www.yahoo.co.jp/) が草分け。

2. プログラムが力任せに探索・機械的整理したもの (ロボット系)
   例えば Google (http://www.google.com/), Lycos (http://www.lycos.co.jp/), goo (http://www.goo.ne.jp/) など。

の二つに分類されたが、現在は、かつてはディレクトリィ系の代表とされた Yahoo 等でもロボット系を補助として利用するようになってきている。

検索エンジンの実際の使い方は、「百聞は一見にしかず」なので、ここでは省略する。

いくつかある検索エンジンの評判については、「日本の Search Engine のリスト」という WWW ページ (http://www.ingrid.org/w3conf-bof/search.html) が参考になる。

google では、検索キーワードを含むページの順位づけに工夫 (「ページランク」) をしているが、大規模な固有値問題を解いている (参考: http://www.kusastro.kyoto-u.ac.jp/~baba/wais/pagerank.html, http://www.math.meiji.ac.jp/~mk/shiminkouen/ohp/mgp00017.html)。

2.6 その他

1. ネットワークが混雑しているときなど、しばしば転送が途中で終了してしまうことがある。こういう場合は “再読み込み” あるいは “更新” をすると良い。

2. 見ているページをファイルに保存することもできる。

3. WWW を使ったアンケート、掲示板の取り扱いには特に注意する。

   - 自分の個人情報はむやみに書き込まない。
   - 他人を誹謗中傷する内容など書き込まない。

3 試しに WWW ページを作ってみよう

明治大学の情報科学センター生田分室のワークステーションにアカウントを持つ人は以下のように簡単にホームページを開設できる。

百聞は一見にしかずなので、試しにやってみることを勧める。

3.1 参考資料

http://www.meiji.ac.jp/mind/seminar/shikaku/330-i7.html
『インターネット講習会資料 自分のホームページの開設方法』

http://www.isc.meiji.ac.jp/faq/homepage.html
『ホームページの立ち上げ方・超・簡易手引き』

3.2 HTML 開設

~/public_html というディレクトリィを作って、アクセス・モードを他人からも検索可能なようにしておく。

始めに一度おまじない

```
isc-xas06% cd
isc-xas06% mkdir public_html
isc-xas06% chmod o+x . public_html
```

既存の HTML ファイルを参考に自分で一つ書いてみる。上記『ホームページの立ち上げ方・超・簡易手引き』にあるサンプル http://www.math.meiji.ac.jp/~mk/syori2-2005/hogehoge-jis.html (UNIX 向け), http://www.math.meiji.ac.jp/~mk/syori2-2005/ms/hogehoge-ms.html (Windows 向け — 修正しました) を用意してある。

例えば emacs で書く

```
isc-xas06% cd public_html
isc-xas06% emacs hogehoge-euc.html        名前は自由
```

HTML については、

```
<html>
<head>
<title></title>
</head>

<body>
<h1></h1>




<hr>
<address><a href="mailto:mk@math.meiji.ac.jp">mk@math.meiji.ac.jp</a></address>

</body> </html>
```

本当は文字コードの説明などをする必要があるが、それは次回以降に解説予定。

4　レポート課題 2

締め切りは現在未定 (5/21 くらい？)。
次の質問に答えよ。

(1) 明治大学のドメイン名は？

(2) 株式会社 SONY のドメイン名は？

(3) 明治大学理工学部数学科サブドメインのドメイン名は？

(4) 自分の情報科学センターのアカウントの E-mail アドレスは？

(5) MIND アクセス・レベル 3 のホストを一つあげなさい。

(6) (これまでに検索エンジンを使ったことがあって、差し支えがなければ) どの検索エンジンを使っているか、その理由は何か、主にどういう用途に使っているか、教えて下さい。

この授業中に余裕があれば HTML の書き方を少し解説する予定ですが、もし見せてもよければ) 自分の作った WWW ページの URL を教えて下さい。

A　おまけ WWW 用語集

大事なものは本文で説明したので、ここにあるのは、残り物です。

ホームページ WWW では、個々のハイパーテキスト・データを WWW ページ (あるいは単にページ) と呼ぶが、ある一つの WWW サービスの玄関に相当するページをホームページと言う (「トップページ」という呼び方もある)。
(明治大学のホームページ、明治大学数学科のホームページ、桂田祐史のホームページ、などなど。)
最近は玄関に相当しないページもホームページと呼ばれることが多くなった (WWW そのものをホームページという人まで現れた。言葉の濫用？)。

ネット・サーフィン WWW のページをリンクを辿ってあちこち渡り歩くことを、気取ってこう言う。もともとは、ケーブル・テレビが普及したアメリカの「チャンネル・サーフィン」という言葉の連想から来た言葉だとか。

B　ドメイン・ネーム・システムの常識

要点: インターネット上のコンピューターを指定するには **DNS** という仕組みを使う

手短に説明すると、

> DNS (domain name system, あるいは domain name service の略) とは、ホスト名、ネットワーク名の分散型データベース・システム。ホストをドメインと呼ばれるグループに分ける階層を作成し、インターネット上の各コンピューターに対し

て、ドメイン名を割り当てる仕組み。(インターネット上のホストとネットワークの数は膨大なものになり、一箇所で集中管理することは難しいので、それを解決するために作られた。) DNS のサーバーをネーム・サーバーと呼ぶ。

以下はゆっくり解説。

TCP/IP においては、**IP** アドレスと言う 4 オクテット (=32 ビット) の数値で、コンピューターを識別するが、これは人間が使うのには不便なので、

- 各コンピューターにホスト名 (host name) と呼ばれる名前をつける
- ホスト名と IP アドレスの対応表を用意する

ことで、通常は、人間はホスト名を使い、コンピューターは IP アドレスを使い、必要に応じて両者を相互に変換する、という仕組みになっている (例えば、数学科で一番大きなコンピューターは oyabun というホスト名を持ち、その IP アドレスは 133.26.132.30 である)。

MIND (明治大学内ネットワーク) に接続する各コンピューターは、ホスト名のみによる識別が可能になっている。(例えば "samba03" というホスト名を持つコンピューターは一台しかない。MIND のすべてのコンピューターはホスト名 "samba03" のコンピューターがどこにあるか=samba03 の IP アドレスがいくつであるか、知っている。)

ところが、インターネットには、無数のコンピューターがあるので、簡単なホスト名だけで、すべてのコンピューターを識別することは困難である。そのために作られたのが、domain name system (DNS) という仕組みである。

DNS では、

1. インターネットを複数のドメインと呼ばれるものに分割して、ホスト名と IP アドレスの対応表はドメインごとに管理する分散データベースとして実現する。
2. インターネット上のコンピューターは、ホスト名にドメイン名を添えることで一意的な名前をつけることにする。

のような仕組みになっている。ちなみに明治大学内のネットワークには "meiji.ac.jp" というドメイン名が付けられている。

実際には、meiji.ac.jp というドメインはいくつかのサブドメインに分割して管理されている (つまり DNS の名前の空間は階層構造を持っている)。サブドメイン名としては、isc (情報科学センター), cs (情報科学科), math (数学科), mind (MIND) などがある。例えば、情報科学センターにある sagami2 は sagami2.isc.meiji.ac.jp という名前。

nslookup コマンドで DNS に問い合わせ

```
oyabun% nslookup
Default Server:  ikuta-ns.mind.meiji.ac.jp
Address:  133.26.136.30

> www.meiji.ac.jp
Server:  ikuta-ns.mind.meiji.ac.jp
Address:  133.26.136.30

Name:    www.meiji.ac.jp
Address:  133.26.136.152

> www.sony.co.jp
Server:  ikuta-ns.mind.meiji.ac.jp
Address:  133.26.136.30

Non-authoritative answer:
Name:    vip.alt.ihp.sony.co.jp
Address:  210.139.255.221
Aliases:  www.sony.co.jp, www-sony.ihp.sony.co.jp

> 133.26.132.30
Server:  ikuta-ns.mind.meiji.ac.jp
Address:  133.26.136.30

Name:    oyabun.mind.meiji.ac.jp
Address:  133.26.132.30

> Control-D
oyabun%
```